



企業紹介

# 株式会社 松村石油研究所

豊田信義\*

## 1. 会社概要

名称 株式会社松村石油研究所  
 設立 昭和33年10月  
 資本金 3億円  
 代表者 取締役社長 河野 信通  
 従業員 200人  
 売上高 60億円  
 所在地

本社 西宮市芦原町10-33

支店 東京

営業所 名古屋

工場 西宮, 千葉, 赤穂

関連会社 (株)マツケン

(株)マツケンインターナショナル

### 事業内容

#### (素材)

流動パラフィン, 精製流動パラフィン,  
 石油スルホネート, 合成スルホネート, 合成油

#### (機能材料)

高真空ポンプ油, 難燃性作動液, 防錆油,  
 工業用潤滑油, ダイカスト油剤, 切削油,  
 高温用潤滑油, ホットメルト接着剤, 耐放射線性潤滑油・グリース, 廃水処理剤

以上の, 特殊潤滑油, 接着剤等の研究・製造・販売

## 2. 理 念

1958年, 当社は松村石油株式会社から分離独立し, 潤滑油という境界領域の開拓を始めました。以来「需用家のための研究所」をモットーに, ユーザーのニーズに沿う, 機能材料, 素材,

接着剤などを開発し, 機械はもとより化学, 薬品, 食品, 包装などさまざまな産業の高度化をサポートしてきました。境界領域の新しいニーズに対応する際には, より専門化された技術やノウハウが必要とされ, あらゆる技術情報を駆使して, 新しい製品を生みだして行かなければなりません。当社は, 無限の拡がりをもつ境界領域における研究開発をユーザーとともに考え, 推し進めていきます。21世紀に向かって, あらゆる企業は未踏技術の開発に挑戦しています。当社は, そうした企業を製品の機能を通して支援する企業を目指します。

## 3. 開発史

- 1958 高真空ポンプ油を商品化。
- 1959 拡散ポンプ油, エゼクター油, 高級ロータリーポンプ油の本格生産を開始。
- 1961 局方流動パラフィンの生産を開始。
- 1962 水グリコール型難燃性作動液を開発。
- 1964 パッケージ型添加剤を開発。
- 1965 流動パラフィンと石油スルホネートの国産化を目指し, 千葉工場の建設を開始。
- 1966~67 流動パラフィン, 石油スルホネートの本格生産を開始。

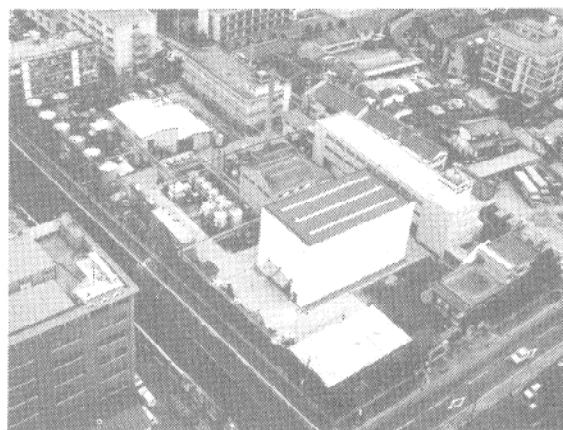


写真1 本社・工場

\*豊田信義 (Nobuyoshi TOYODA), (株)松村石油研究所, 技術部, 部長



写真2 千葉工場

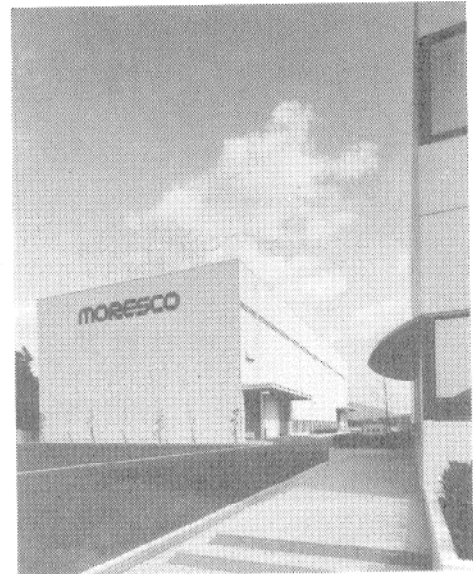


写真3 赤穂工場

- 1970 油性切削油，圧延油を開発。
- 1971 乳化廃水処理剤を開発。  
東京事務所設置。
- 1972 合成系高真空ポンプ油を開発。  
ダイカスト離型剤，プランジャー潤滑剤  
を開発。
- 1973 耐摩耗性高圧用水グリコール型難燃性作  
動液を開発。  
重切削用水溶性切削油を商品化。  
子会社(株)マツケンを設立。
- 1977 CIを導入。  
ホットメルト型接着剤を開発。  
高希釈型ダイカスト離型剤を商品化。
- 1978 精製流動パラフィンを商品化。
- 1979 (株)マツケンインターナショナルを設立。
- 1980 名古屋出張所を設置。  
合成油を応用した高温用潤滑油を商品化。  
水溶性プランジャー潤滑油を開発。  
防錆油を商品化。
- 1982 高含水作動液を開発。
- 1983 合成スルホネートを商品化。  
ポリフェニルエーテル型合成潤滑油を開  
発，高真空ポンプ油を商品化。
- 1984 耐活性ガス性真空ポンプ油を開発。  
耐放射線性潤滑油・グリースを開発。
- 1986 赤穂工場を建設。  
フッ素系不燃性合成潤滑油を開発。

1987 アルミサッシ押出用固体潤滑剤開発。

#### 4. 研究開発

「ユーザーが求める機能を具体化する」。これが当社の製品開発に対する基本姿勢です。特に境界領域の技術は特異な領域を形成しているため、ユーザーの協力なしには研究も開発も考えられません。当社は創業以来「ユーザーのための研究開発」をモットーに境界領域に関するあらゆる情報を収集、分析。ユーザーの「もっと高温に耐えるものを」「より蒸気圧の低いものを」「さらに高圧に耐えるものを」……という声を効率よく、しかも的確な方法で研究開発に反映させ、独自の製品化を行ってきました。また、市場ニーズの多様化、複雑化に対して、充実した研究スタッフと研究設備を核に技術革新を展開。徹底した基礎的研究，新しい生産技術の開発，多岐にわたる応用研究を通じ、信頼性の高い新製品を次々に生み出しています。

21世紀は技術の複合化，集約化が繰り返され今までにない技術的に優れた高感度社会が繰り広げられようとしています。当社は、境界領域のスペシャリストとして、機能性と可能性を徹底追及。ユーザーニーズの方向を的確に捉え、ユーザーと二人三脚で独自の製品開発を推し進めます。そして、境界領域の研究開発を基盤に限りなき成長を続ける企業を目指します。

当社は、独自の発想と技術で潤滑油の適用領域を拡げてきました。たとえば、大阪工研協会工業技術賞を受賞した合成拡散ポンプ油、日本原子力研究所との共同開発による耐放射線性潤滑油・グリース、近畿化学会化学技術賞を受けた合成スルホネートなど、潤滑油のスペシャリストとして高機能、高品質の高真空ポンプ油、作動油などを提供してきました。また、接着剤として今日その需要が高まる、当社のホットメ

ルトは製本、包装用として、さらには自動車、衛生用品用の接着剤としても不可欠なものとなっています。こうした製品を支える技術的背景が、当社の徹底した市場調査力と情報収集力、分析力、そして、それらを具体化する研究開発力です。また、近年、ますます高度化するユーザーニーズに即応するため、異業種や公的機関などとの共同開発を業界を越えた視点から積極的に行ない、技術力の向上を図っています。

